

CASBEE®-建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)日本オーガニック株式会社	階数	地上2階
建設地	静岡県浜松市北区都田町	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	10人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,700時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	
竣工年	2021年4月 予定	評価の実施日	2020年4月15日
敷地面積	13,456 m ²	作成者	阿部正雄
建築面積	4,752 m ²	確認日	
延床面積	4,693 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 0.6

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ★★★★★ 60%: ★★★★★ 80%: ★★★★★ 100%: ★★★★★ 100%超: ★★★★★

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 1.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.9

LR のスコア = 3.4

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。土地区画整理事業の工業専用地域という用途地域に則した工場としての配置計画、緑地計画としている。		
Q1 室内環境 昼光を利用するため、トップライトを設置している。	Q2 サービス性能 工場作業における機能性を重視している。執務スペースは有しない。鉄骨造を採用し、可変性のある空間を設計している。	Q3 室外環境(敷地内) 地域の緑化指導に基づく、緑化を行っている。
LR1 エネルギー 照明においてLEDを採用し、省エネルギー化に努めている。	LR2 資源・マテリアル 断熱材に発泡剤を使用していない。	LR3 敷地外環境 本事業の関係車両を勘案し、動線、建物配置、駐車スペースの検討を行っている。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	(仮称)日本オーガニック株式会社 浜松新工場	BEE	0.6	BEEランク	B-	★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	2.7 /5		がんばろう			
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	2.2 /5		がんばろう			
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.0 /5		がんばろう			
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.0 /5		がんばろう			
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目					
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。							
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点		2.7			
	■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ②トップライトを設置し、昼光を室内に取り入れている。	Q-1	2	2.1	2.1.2	①	外皮性能
		Q-1	3	3.1	3.1.3	②	昼光利用設備
		Q-2	2	2.2	2.2.1	③	昼光制御
			2	2.2	2.2.2	④	躯体材料の耐用年数
			2	2.2	2.2.3	④	外壁仕上げ材の補修必要間隔
	2	2.2	2.2.4	④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔		
	2	2.2	2.2.4	④	空調換気ダクトの更新必要間隔		
	2	2.2	2.2.5	④	空調・給排水配管の更新必要間隔		
	2	2.2	2.2.6	④	主要設備機器の更新必要間隔		
■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥地域の条件に応じた緑化計画を行っている。	Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出	
	3	3.2			⑥	敷地内温熱環境の向上	
	■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率の運用) ⑧トップライトを設置し、昼光を利用している。 ⑨LED照明を採用し、省エネルギー対策を行っている。		LR-1	1		⑦	建物外皮の熱負荷抑制
		2			⑧	自然エネルギー利用	
		3			⑨	設備システムの高効率化	
		4	4.1		⑩	モニタリング	
		4	4.2		⑩	運用管理体制	
	■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑬発泡剤の断熱材を使用していない。	LR-2	1	1.1		⑪	節水
		2	1.2	1.2.1	⑪	雨水利用システム導入の有無	
			1.2	1.2.2	⑪	雑排水等利用システム導入の有無	
		3	2.1	2.1.1	⑫	材料使用量の削減	
			2.1	2.1.2	⑫	既存建築躯体等の継続使用	
			2.1	2.1.3	⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用	
2.1	2.1.4		⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			
2.1	2.1.5	⑫	持続可能な森林から産出された木材				
2.1	2.1.6	⑫	部材の再利用可能性向上への取組み				
3	3.1		⑬	有害物質を含まない材料の使用			
3	3.2	3.2.1	⑬	消火剤			
3	3.2	3.2.2	⑬	断熱材			
3	3.2	3.2.3	⑬	冷媒			
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) 特記すべき事項無し	LR-3	1			⑭	地球温暖化への配慮	
2	2.2		⑮	温熱環境悪化の改善			
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点		2.2			
	■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) 特記すべき事項無し	Q-2	2	2.1	2.1.1	⑯	耐震性
		2	2.1	2.1.2	⑯	免震・制振性能	
		2	2.4	2.4.1	⑰	空調・換気設備	
		2	2.4	2.4.2	⑰	給排水・衛生設備	
		2	2.4	2.4.3	⑰	電気設備	
		2	2.4	2.4.4	⑰	機械・配管支持方法	
		2	2.4	2.4.5	⑰	通信・情報設備	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点		2.0			
	■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑲ゆとりのある階高を設定している、 ⑳壁長さ比率0.09としている。	Q-2	1	1.1	1.1.3	⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画
		3	3.1	3.1.1	⑲	階高のゆとり	
		3	3.1	3.1.2	⑲	空間の形状・自由さ	
■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) 特記すべき事項無し	Q-3	3	3.1		㉑	地域性への配慮、快適性の向上	
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点		2.0			
	■室外環境(敷地内)対策 (②生物環境の保全と創出/②まちなみ・景観への配慮/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥地域の条件に応じた緑化計画を行っている。	Q-3	1			⑤	生物環境の保全と創出
		2			②	まちなみ景観への配慮	
		3	3.2		⑥	敷地内温熱環境の向上	
	■敷地外環境対策 (③温熱環境悪化の改善) 特記すべき事項無し	LR-3	2	2.2		③	温熱環境悪化の改善